

私を変えた先生との出会い

私は、自然が豊かな坂の上にある中学校に入学し、そこで〇先生と出会いました。

全校生徒が100人弱の中学校でしたので、先生も10名と少なかったですが、その中でも〇先生は特別でした。目尻が垂れている優しい顔、鼻にかかった声、背はすらっとしているけれど歩き方は猫背気味……。〇〇〇自動車がとにかく大好きで、1回だけ全校集会の生徒の前で、〇〇〇自動車の帽子やパンフレットを持参し、その素晴らしさをキラキラと目を輝かせながら話をしてくれたこともありました。

私は、分かりやすい授業をしてくれることはもちろん、ひいきをせず全ての生徒に对等に接してくれる、いつも口角が上がっていて、どの生徒に対しても必ず声をかけてくれる愛情たっぷりの先生が大好きでした。そして悪いことは悪いと本気で怒ってくれ、良いと思ったことはこれでもかと褒めてくれる。「あ、この先生はちゃんと自分のことを見られている。」と、中学生ながらも生徒全員が感じる事ができていました。特別なことはせず、だれとも比べず、「わたし」を大切にしてくれる。もちろん、子どもから先生の評判を聞いている保護者からの信頼も厚く、人として尊敬されるべき先生でした。

〇先生は、その後、他校に異動され、体調を崩し44才の若さでお亡くなりになりました。会いたいと思っても、もう会えません。自分がこんなに〇先生のことを思っているのは、自分よりも先に逝かれたことが大きいと思います。

そんな私も、現在、教職に就いており、〇先生の生徒に対する思いを引き継ぐことが私の使命だと思い、日々生徒に真摯に向き合っています。

今年のお盆も中学校の同級生と会いました。みんな口を揃えて言っていた一言、「〇先生、本当に良い先生やった。」

〇先生、私たちの人生に携わってくださり、本当にありがとうございました。〇先生は、私たちの心の中でいつまでも生きています。

椎葉 香

(一般)